**2022年9月9日開催　住吉区地域自立支援協議会研修会報告**

今年度第2回目の研修会のテーマは、「HIV感染症・エイズの理解を深めましょう。～相談・受け入れで困らない為に～」をテーマに大阪市保健所の感染症対策課医務主幹の伊集院氏と保健師の富原氏が講師として来ていただき、お話をいただきました。

講演に先立ち、古田委員長から挨拶があり、まずHIV・エイズは昔から馴染みのある言葉ですが知識に対してはあまり更新されていないのが現状のようだということ、この間も「事業者による利用者がHIVであるという理由で利用を断られた」という事案が起こったということでした。このようなことは知らないだけで多くあるそうです。

初めにHIV・エイズの違いの説明がありました。HIVはウイルスの名前で、エイズ（AIDS）は病名という事です。さらにHIVに感染してもすぐにエイズを発症するわけではなく感染した後でも長く無症状の時期が続くようです。

次に「HIV・エイズ＝死」という事ではなくなってきているという事実です。死の病といった印象が世間ではまだ認知されていますが、現代医学においては早く治療し、継続的に服薬していれば、寿命を全うできるとろにまで来ているそうです。ただHIVウイルスを排除するまでには70年はかかるので慢性疾患となっているそうです

そしてHIV・AIDSの知識として大事な「U＝U」を学びました。「Undetectable=Untransmittable」の略で日本語訳は「検出限界値未満＝HIV感染しない」です。服薬を続けることでHIVウイルスの検出限界値未満を下回り、一定期間数値を維持することで、HIV感染のリスクが事実上なくなるようです。

検出限界値未満の場合コンドームの着用がなくてもHIVに感染しないようです。こういった知識は知りませんでしたし、世間で周知されていないことだと思います。

さらにHIVに関して大事なことが「スタンダードコンプリーション」です。別の呼び方では「標準予防策」となり「エイズ・HIV感染に関わらず常に相手がそういったリスクがあるものとして予防・行動する」という事です。近年ではコロナウイルスの蔓延もあり、ウイルスの予防に関しては強く意識をする様になりましたが、HIVウイルスに関しても予防の意識が必要です。例えば「手洗い」の実施や「使い捨てマスク」の使用「物品の個別化」をすることで標準予防ができます。私たちは直接肌を触れ合う機会も多いので特にHIVの標準予防が大事になります。

講演の合間にHIVに関するクイズもあり、感染する行為があるかどうかの〇×で、例えばHIVの方と回し飲みをした場合や、一緒にお風呂に入った場合等で、ほとんどが感染しないというものでした。唯一気を付けないといかないのは、HIV患者がつけたピアスをつけること、これは注射器と同じで血液から感染する可能性があるからとのことでした。

また、HIV陽性者の支援に必要な「HIV感染者は孤立しやすい傾向にある」「プライバシーの配慮が必要である」という事も学びました。HIV感染者は家族や友人に言えない事も多く孤立しているパターンが多いようです。なので支援するときは孤立させない支援を心掛けることが必要です。それと同時にプライバシーの配慮も必要となります。たとえ家族や身内であってもHIVに感染していることを打ち明けるのが嫌な方もいるので、配慮しながら支援していく事がとても重要になります。

今回の研修はHIV・エイズに関してとても勉強になりました。今後支援で活かせるように周りの方にもしっかり周知していきたいです。ありがとうございました。

（文責　浅田）